

サンワ・リノテックがお届けするお徳な記事満載の情報紙。 きっとお役に立ちます。

ユーザー様訪問

当社は「職場をより快適により安全に」を目指して、大阪市内の企業4社で「3S活動」に取り組んでいます。研修中の席上で、メンバーのサンコー物産(建築土木資材製造販売)の細川三郎会長が、近々「ヒロシマ原爆の惨事～永久平和を願う～」の特別講演をされると耳にしました。当社の佐川は、普段から母の教えを経営理念とされている細川会長の姿勢に感銘を受けており、その原点が被災した経験から来ることを知り、ぜひ瓦版に掲載したいことをお願いして快諾を得ました。



講演される
サンコー物産株式会社
代表取締役会長 細川三郎氏

講演は戦争終結の昭和20年8月の出来事を中心に、原爆の悲惨さ、戦争の恐ろしさ、平和の重要性、そして母親の偉大さについて語られました。

大東亜戦争の発端は昭和16年の12月8日の真珠湾攻撃でした。終結は昭和20年8月15日で3年9か月続きました。今から69年前のことです。昭和20年8月6日午前8時15分、広島に原爆が投下。9日には長崎にも投下されました。広島は原爆で約14万人が、長崎では7万人が亡くなりました。

細川氏はずっと母の背中を見て育ち、多くのことを母から教わりました。冒頭はその母の回想からでした。父は戦争が始まった翌年に戦死。細川氏は当時4歳でした。家には軍服姿の写真が飾ってあり、それを見るたびに母が「これがお前の父だ」と言われて育ちました。

原爆が落とされた昭和20年、細川氏は小学校の低学年でした。いつも家族は同じ食卓を囲んで食事をしていました。母は食事を取りながら、子供達が生きていくための心構えを教えてくださいました。

常に「自分に負けたいけん」、二言目には「嘘をついたらいけん」と言っていたそうです。他人に嘘をつくことは勿論「自分に対しても嘘をついたらあかんで」と口を酸っぱくして繰り返し、さらに「弱い者いじめをしたらいけん」、「弱い人を助ける気持ちを持って」とも教えたそうです。明治生まれで言うことに筋が通っていたそうです。細川氏はそんな言葉を聞きながら成長しました。

社会人としては「謙虚な気持ちでおれよ」、「偉そうにしたらいかん」、「偉くなる人は頭が低い」とよく聞かされました。細川氏は会社経営に携わってから、母が言っていた謙虚な気持ちで一步下がって相手の意見を聞くことの大事さがわかり、相手の話を聞き、相手を認め、認めたところから新しい道が開けることを実感したそうです。

母は「質素な暮らしをせよ」とも言ったそうです。「上を見ればき

りがない。下を見てもきりがない。常に質素な生活をしていれば、必ず道が開ける」ということです。また「よそ様に対しては、先に挨拶をせよ」と教わりました。細川氏は77歳になった今でも感謝の気持ちであいさつすることを心掛けているそうです。

◎原爆の体験について

次に原爆体験について語りました。広島に原爆は人類史上初めての出来事で、爆発とそれに伴う火災で14万人が亡くなりました。あまりにも悲惨な死に方が多く、尊厳死を考えることすらおぼつかない状態でした。最初は無傷でも半年経ち、1年、2年経つと放射線を受けたところがケロイド状になってくる。それが差別につながったそうです。

8月6日、B29が広島に飛来し、原爆を投下。一瞬ぴかっと光り、熱で家屋が発火し、広島の街が丸焼けになりました。細川氏の家族は広島市の中心地から約20キロのところに住んでいました。

当日、小学校へいつものように上級生と一緒に登校していました。午前8時15分、地上600mで原子爆弾が炸裂。爆発地から20キロ程離れていましたが目に青い光線が入ってきました。ぴかっと光った時に学童達は道に立ちすくみました。そうすると間髪入れずにドーンと雷以上の大きな音がしました。

上級生に促され学校に到着。皆が校庭に集まると教員の先生はすぐに家に帰れと言いました。広島でどのようなことが起こったかは全く分かりませんでした。電話は不通。自動車は軍の自動車しか通っていませんでした。

姉は商業高等学校に通い、学徒動員で軍服の縫製をやっていました。後でわかったのですが、爆心地から900m程のところまで被災したそうです。6日の晩8時頃に母と一緒に帰って来ました。母は姉を寝かし、姉の枕もとでタオルを湿して拭きかけると「痛い」といって受け付けませんでした。痛いと言ったのはガラスの破片が体に突き刺さっていたからでした。翌日母は「これは痛かったやろう」と日の当たるところでピンセットで一つつガラスの破片を取り除きました。灯火管制下では、暗くて手元が見えなかったのです。



講演後に細川会長に、お礼の言葉を伝えている当社の佐川
(裏面に続く)

(表面より) 姉は2年間病氣と戦いました。放射能の影響で徐々に弱っていきました。体がケロイド状になって、死のうと思っても死ぬことができません。病名すら分からず18歳の短い一生の幕を閉じました。

戦争に行っていた兄は8月8日亡くなったと通知がありました。陸軍一等兵でしたが、遺骨は還って来ませんでした。

◎戦争のない平和な世界を

戦争の苦しみや悲しみは体験した人でないとわかりません。広島は原爆で50年間は草木も生えないと言われました。しかし生き残った人々は原爆が落ちた翌日から被爆の地で必死に生きてきました。

幸せを永遠に望むならば、何をしなければいけないのか。「今の平和に感謝し、何事に対しても相手を思う心、慈悲の心、感謝の心、それらを持ち合わせることではないか」と細川氏は訴えます。また「憎しみ合う心、攻め合う心では絶対に平和は保てな

い。核兵器を目の前にちらつかせて平和は守れない」と語っています。

細川氏は母の後ろ姿を見て育ちました。その母は最後に「戦争をしたらいいけん」と言って亡くなりました。享年88歳でした。「一億の母はあれども、されど我が母に優る母はなし。生みの親は一人」。その母にいろんなことを教えてもらったということです。

細川氏は母の教えを会社の社訓に「挨拶は他人より先に 謙虚な心で 質素に生きよ」と掲げています。

つまり①挨拶は幸せの第一歩、思いを込めて笑顔で他人より先に②実るほど頭を垂れる稲穂かな、放漫な心は身を滅ぼす③華やかしときは滅びゆくもの、質素な道を選択せよ—という意味だそうです。三つの信条では、慈悲の心、感謝の気持ち、共存共栄の精神をあげています。

また経営理念の「私たちは、住環境資材を通じてお客様へのお役立ちと地域社会に貢献します」を実践しています。

TOPIC

泉南アスベスト訴訟—最高裁、国の責任認める 石綿被害者 扉が開いた— 泉南訴訟前面和解へ

最高裁が国の賠償責任を認めた泉南アスベスト訴訟をめぐる、塩崎厚生労働相が謝罪と一括解決の方針を示した(21日)原告は「重い扉が開いた」と喜びを表現した。

これまで厚労相との面会も断られ続けてきただけに、念願がようやくかなうことで安堵の声も上がる。

ただ、最初の提訴から8年半の間に14人の原告が死亡したことで、仲間と共に解決を喜べないことを悔やむ原告もいた。

上告審の焦点は、

国が健康被害を防止する対策を怠っていたと認められるかどうかで争われました。

アスベストを扱う工場における

- ① 排気装置の設置義務付け
- ② 粉塵濃度の規制
- ③ 防塵マスクの着用義務付け

この3点が争点になっていました。

原告側は国の対策は遅すぎたと主張。国側はその時々々の知見に応じて処置をとっており責任はないと反論していた。

(産経新聞より抜粋)

アスベスト除去工事における漏洩監視が義務化されました

平成26年6月1日より厚生労働省「改正石綿障害予防規則」と環境省の「大気汚染防止法 石綿技術指針および石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル2.01版」が施行されました。

改正により、石綿除去の処置として集塵・排気装置の排気口からの石綿漏洩の有無を点検しなくてはなりません。

「マニュアル2.01」記載

P43 2-2-2(4)(6) 毎作業前に排気の粉塵の漏洩監視を行うこと。

P46 漏洩監視の具体例が挙げられている。

P23 2-2-2(5) 負圧監視を1日1回行うこと。

P47 7.8 負圧監視の具体例が挙げられています。



TOPICでもお知らせしましたように、 今年からアスベスト除去工事における 漏洩監視が義務化されました。

弊社では、今回の法律及びマニュアルの改定に伴いまして、取り扱いレンタル品の見直しを行いました。

アスベスト対策業者の皆様のご要望にお応えして、上記の監視測定機器である粉塵計と負圧記録計をレンタル用にラインアップしました。



LD-5
(ポンプ内蔵型デジタル粉塵計)



PL-10 ルームインスペクター
(負圧監視装置)

詳細は、ホームページをご覧ください。(www.sanwa-renotech.com)

編集後記

今回久しぶりに瓦版を発行できました。今回のインタビューは、これまでとは異なるジャンルでお届けしています。

サンコー物産様とは、3S活動に取組んで6年になります。また、以前この瓦版にも大阪建設機械器具協会前理事長として、また当社の所属する大阪建設機械リース協同組合の姫野理事長と、私との3者鼎談にも登場いただいております。

ヒロシマのお話は重たい話ではありますが、政治的な主義主張は別として忘れてはならない永遠のテーマだと思います。ヒロシマの原爆ドームは文化財保存の原点であり、私のライフワークの原点でもあります。

今回のお話しをお聞きして、歴史と建造物の保存を含めて我々の子孫に伝え残すことが、あらためて使命であると思いを強くしました。

(文責:佐川)

発行

作業現場の快適のために—
レンタル、販売から工事施工まで

Sanwa Renotech

サンワ・リノテック株式会社
www.sanwa-renotech.com

アスベスト サンワ で検索できます

〒551-0033 大阪市大正区北畠加島1丁目17番4号
TEL.06(6551)0024 FAX.06(6554)1057
東京営業所 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-16-2702
TEL.03(6912)8292 FAX.03(6912)8293